

## 故 田村康一君を悼む

大野 正夫



2025年1月末に母君から、寒中お見舞いのはがきが届きました。正月に賀状が届いた者への返信であった。

その文面では「長男、康一 56歳は昨年2月28日に病気のため逝去いたしました。生前の長きにわたる御誼誠にありがとうございます。心からお礼もあげます。

お知らせが遅くなり申し訳ありません。

田村制子 〒801-0823 北九州市門司区旭町 13-24

### 写真は天山山脈

田村君から、一昨年に年賀状をもらっており、その賀状には、未来都市計画の場面が印刷されて、「元気にやっています」という添え書きがありました。暮れに年賀状を出したと思うと、3か月の間に異変があったのでしよう。

田村君との出会いは、天山山脈登頂計画の時から始まった。天山山脈の最高峰、ボベータ峰(7,439)mは、1946年にロシア側から登頂の記録はあるが、中国側が未踏峰であった。ウイグル語ではトムールと呼ぶので、我々はトムール登攀隊として、1次隊は1990年に登攀が行われた。山岳部OBが主力で田村君は山岳部部員でもあり、登攀メンバーの一人であった。探検部OBはサポート隊で、トレッキング隊を組んでした。1次隊は、隊長5名が、テントが雪崩に会い、全員が行方不明となった。田村君は登攀隊の遭難を、下のテントで確認した。遭難者の中に探検部1年生がいたことを悔やんでいた。1992年には2次隊の5名で編成し、軽装短期登攀を計画し、田村君は副隊長として参加したが、同じくテント中で休憩中に雪崩に会い、5人はテントから危機一髪、脱出来た。1994年には、彼が隊長で3次隊を結成し雪崩発生地帯まで進んだが、雪崩が頻発するので撤退した。準備期間を入れると18歳から25歳の青春時代の7年間を、トムール登攀に費やした。

1次隊は山岳部と探検部の合同で編成され、山岳部OBが遭難事故後の後始末に奔走したが、探検部にはOB会がなかった。大学側から探検部にOB会の発足を要請されて、1992年に探検部OB会が発足した。その時に、川尻氏、小森氏、田村氏と話し合い、年長者として私が会長となった。会報「探検・探査」を11回刊行したが、川尻事務局長小森幹事長、田村幹事で運営していた。この間、探検部OBは、海外の山行に多く出かけて、田村氏も報告している。

時代はIT時代になり会報刊行は停止し、会費制も廃止して、2004年より、毎年総会時のカンパで運営し、探検部OB会のホームページは田村氏が管理者(ボランティア)となった。田村氏は、後年、私に「本業以外で、最も軸足を置いたのは、探検部OB会の活動であった」と語ったこと記憶している。

2004年から2020年頃までは、年1回の総会とOB仲間での活動が続いた。私は大学を定年退職して、探検OB会の活動に、あまり参加していなかった。2020年頃、田村氏から探検部OB会の退会通知と「グループメールとホームページを時限付きのウエイブサイトに貼り付けた」と事務局長に連絡があった。

幸い、現在の(株)遊歩クリエイティブジャパンが、グループメールとホームページの管理を引き受けて下さっているが、著作権問題(彼が管理者であったことから)で、事務局長に、いろいろクレームをつけ、彼の本音が分からずにいた。この問題は、本人から撤回して解決した。彼からは、OB会退会後も、私には年賀状は届き、「元気に過ごしています。今大きな企画に関わっています」と、年賀状に添え書きがあった。一昨年末までは、年賀状を書く気力があり、元気であったと思います。

冥途で元気にいることを祈念します。